

大学院看護学研究科看護学専攻	
学籍番号	DN1201
氏名	青木 さぎ里
学位の種類	博士（看護学）
学位授与年月日	2016年3月22日
学位授与の要件	学位規程第4条第2項該当
論文題目	離島町村で働く新任期保健師の看護実践能力の向上につながる経験
主指導教員	春山 早苗 教授
副指導教員	永井 優子 教授
	本田 芳香 教授
論文審査委員	主査： 教授 中村 美鈴
	副査： 教授 永井 優子
	副査： 教授 成田 伸

### 論文審査の結果の要旨

本研究は、離島町村に勤務する新任期保健師の看護実践能力の向上に繋がる経験を明らかにし、離島町村における新任期保健師の現任教育への示唆を得ることを目的とした質的記述的研究である。新任期の離島町村保健師3名を対象に、保健師としての看護実践能力の向上につながったと思う出来事について、リフレクティブ・サイクル(Gibbs,1988)を用いたインタビューを1年間に各3回実施した。得られたデータは、保健師のリフレクションを構成する概念(上田,2012)の枠組みを参考にして分析し、リフレクションのきっかけとなる看護実践上の気にかかる現象および保健師の実践と内面の変化に影響を及ぼした他者との関わり等から看護実践能力の向上につながる経験を抽出した。また、各回のインタビューにあわせて、対象者およびその上司2名に対して、保健師の看護実践能力の構造(厚生労働省,2011)に挙げられた計46項目について4件法による評価得点の変化をもって、客観性を担保した。

結果として、離島保健師は新任期に、一人の住民への支援がうまくいかないことが島民全体に広まり、保健師としても住民の一人としても信用されなくなってしまうことへの恐れなどを経験しており、これに対し自問自答する機会をもつことや専門職として客観的に見ることが可能にする他者との関わり等の経験が看護実践能力の向上につながることを明らかにした。考察では、離島保健師が直面している課題を乗り越えられるようにする支援などが示

唆された。

本研究は、離島において島嶼性を踏まえた地域看護実践力の高い保健師の確保と定着の課題を解決するという可能性につながり、独創性が高く、離島保健師の新任期に必要な現任教育の方法と体制、ならびに島民のヘルスニーズ充足のための看護実践能力の向上への寄与という実践的かつ社会的意義が認められ、広域実践看護学分野の目的にも適合している。

研究方法は独自性が高く、その方法により、島嶼性の特徴を追求し、希少な知見を得た。

平成 28 年 1 月 6 日の論文審査では、研究方法の明解な記述、目的に即した考察の論理的記述、論文全体の論理的一貫性に対する指摘事項があったが、2 月 15 日の最終試験、ならびにその後において、指摘事項に関する修正・加筆はできていた。

以上より、審査の結果、本論文は審査基準を満たしていると判断した。